

「健康な高齢化の10年（2020～2030年）」の4つの行動領域と世界的な横断的課題との関係性について理解を深めることを目的に、テーマを設定した理解促進のための冊子（アドボカシー・ペーパー）「『10年』のコネクション・シリーズ」を定期的に発行します。

「10年」の行動領域は次の通りです。

- 1 年齢や高齢化に対する考え方、感じ方、行動を変える。
- 2 高齢者の能力を育む方法でコミュニティを発展させる。
- 3 高齢者に対応した、人を中心とした統合ケアとプライマリー・ヘルスサービスを提供する。
- 4 高齢者が必要とするときに長期介護を利用できるようにする。

加盟国、国連システム（特に国連カントリーチーム）、国際機関、市民社会ネットワークのリーダーや影響力のある人たちを読者層としてターゲットにしています。

変化の激しい複雑な世界において、「10年」は、関連性があり、機敏で、国に焦点を当て、人を中心としたものであり続けなければなりません。私たちは、このシリーズが、利害関係者が現在及び新たに生じている世界的な横断的課題と、「10年」を実行する上でのそうした問題の意味合いについて考察する一助となることを願っています。

健康な高齢化とは？

WHOでは「**高齢になっても健康でいられるような機能的能力が発達し、維持される過程**」と定義しています。

機能的能力とは、全ての人々が、自分になりたいことや大切にすることを可能にし、それを実行する能力で構成されています。機能的能力とは、基本的なニーズを満たす能力、学習、成長、意思決定を行う能力、動くことができる能力、人間関係を構築し維持する能力、社会に貢献する能力のことを言います。機能的能力は、個人の内在的能力、関連する環境特性、及びそれらの間の相互作用で構成されています。

Please send any feedback to: Decade_Ageing@who.int

COVID-19と 健康な高齢化の10年

COVID-19は、前例のない広がりや影響を持つ国際的な公衆衛生上の緊急事態であり、社会と経済の根幹を揺るがしています。全世界の78億人、特に1日あたり2.5米ドル以下で生活している30億人が危険にさらされています。これに対応するため、第73回世界保健総会は、140の加盟国が共同提唱したCOVID-19対応決議を採択しました。その後、WHOのCOVID-19戦略的対応が採択され、定期的に更新されています。

COVID-19パンデミックは、健康、介護と支援、社会保護、金融、情報共有、農業と食料、貿易、労働、雇用、輸送など、多くのシステムにおいて、機能不全と脆弱性を露呈しています。それは、リスク、不平等、交差する差別への認識と、それらへの対応の隔たりを明らかにしています。しかし、それはまた、私たちの回復力（レジリエンス）と創造性、世代間の連帯の中でどのようにして命を救い、向上させることができるか、そして私たち全員が依存している生態系をどのように大切にしているかを明らかにしています。COVID-19によって、私たちは「ニュー・ノーマル」を築く機会を得ています。

COVID-19は、人生の後半にある人たちに大きな影響を与えています。人口に占める60歳以上の割合が高い国や地域で、死亡者の割合が最も高くなっています。高齢者は、若年層に比べて重症化のリスクが高く、死亡率も高くなります。COVID-19パンデミックでは、重症化しやすいかどうか、回復しやすいかどうか、そして長期的な健康状態や幸福度が、パンデミック前の高齢者の健康状態によって決まることも示されています。そのため、免疫系、心血管系、呼吸器系に影響を及ぼす基礎疾患を持つ人々の間では、粗死亡率が増加します。その他にも、民族性、性別、所得、長期療養施設などの生活環境などで格差が生じています。

WHOの194の加盟国は、すでに「健康な高齢化の10年」を呼びかけており、他の国連パートナー、国際機関、非国家主体との協議のもとに策定された世界的な「健康な高齢化の10年（2020-2030年）」の提案への支持が高まっています。これは、「高齢化と健康に関する世界戦略2016-2030」及び「高齢化と健康に関するワールド・レポート」（2015年）、「高齢化に関するマドリッド国際行動計画」（2002年）に基づいており、「持続可能な開発のためのアジェンダ2030」（2015年）と、その「世界中で、誰も取り残さない」という公約の実現を支援するものです。「健康な高齢化の10年」のビジョンは、全ての人々がより長く、より健康的に生きる世界です。これは、政府、市民社会、国際機関、専門家、アカデミア、メディア、民間企業など、多様なセクターや利害関係者を巻き込み、世界的な協力関係を構築することを意図しています。

ビジョンと多様な利害関係者の協力は、COVID-19の時代にはさらに重要になります。パンデミックによって、健康な高齢化を促進するための協動的で持続的な注目、投資及び行動の重要性が強調されています。これは、あらゆる場所の高齢者、現在生きる人々、そして彼らに続く人々の健康、幸福、社会的及び経済的包摂と人権のために人類がつかむべき機会なのです。

「10年」は4つの行動領域に焦点を当てており、その全てがCOVID-19にも関連しています。これらは、健康と福祉を守るための鍵であり、強く相互に関連し、高齢者とその家族、そして地域社会の生活を改善することを目的としています。4つの行動領域は以下の通りです。

行動領域1：年齢や高齢化に対する考え方、感じ方、行動を変える。

【何を意味するか】

エイジズムとは、年齢を理由とした「私たちがどのように考えるか」のステレオタイプ化、「私たちがどのように感じるか」に対する偏見、「私たちがどのように行動するか」という人に対する差別のことを言います。エイジズムはあらゆる年齢層の人々に影響を与えますが、特に高齢者には悪影響を及ぼします。

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって何が明らかになったか】

COVID-19は、高齢者が病気にさらされるリスクを減らし、高齢者の人権を守り、健康・社会システムを準備・維持するための政府、市民社会、コミュニティの対応の強みと限界を明らかにしています。COVID-19は、いかに社会にエイジズムが蔓延しているかを明らかにしています。それは言語にも現れており、ある文脈では、誰が検査を受け、治療を受けるかについての決定にも影響を与えています。人々が年齢に応じてサービスへのアクセスを拒否されたり、制限されたりする状況が発生しています。導入された基準値は、人生の後半にある人々の能力、疾患が併存する状態の多様性を考慮していないため、人権法に違反している可能性があります。導入された規則は、高齢者には本来の意図とは異なる影響を及ぼす可能性があり、例えば、長期間の隔離は保護にはなりませんが、移動と交流を制限することで孤立を招くこともあります。

【すべきことは何か】

全ての政策、状況及び実践においてエイジズムと闘うための努力を強化し、年齢を理由とした負のステレオタイプ、偏見、差別に対する関心が払われなければなりません。また、隔離及び移動が制限された中において、高齢者に対する暴力に対しても注意を払われなければなりません。「10年」は、メディアを巻き込み、情報を更新し、世代間の連帯を促進する機会を提供します。「若かろうと高齢であろうと、使い捨ての人はいません。」

行動領域2：コミュニティが高齢者の能力を育成することを保証する。

【何を意味するか】

高齢者に優しいコミュニティとは、都市部と農村部の両方において、様々な能力を持つ高齢者が、自分に適した場所で安全に年齢を重ねることができるような物理的、社会的、経済的な環境のことであり、高齢者の自律性、尊厳、健康と福祉を維持しながら、参加し、個人的にも職業的にも成長し、コミュニティに貢献することを可能にするものです。

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって何が明らかになったか】

COVID-19は個人、家族、地域社会、社会に深刻な影響を与え、その混乱は高齢の男女、特に日常生活において介護や支援を必要とする人々、介護施設入居者、すでに孤立し孤独を感じている人、閉鎖された職場やスラム、ファヴェーラ（*ブラジルのスラム街）、ホームレスシェルター、難民キャンプ等の密集した居住空間に住む人々に対して、不均衡な影響を与えています。失業や社会的交流の機会を失うことは、恐怖、社会的孤立、うつ状態、孤独、虐待、ネグレクトを増加させる可能性があります。

【すべきことは何か】

COVID-19によって引き起こされた環境の変化に迅速に対応するためには、都市やコミュニティの既存のインフラを活用する必要があります。COVID-19の市中感染を阻止し、パンデミックの二次的な影響を緩和するための効果的な行動を決定するために、地域のサービス提供者、企業、市民社会、コミュニティ・ネットワーク（高齢者団体を含む）と緊密に協力して戦略を策定すべきです。これは、年齢に配慮した政策や実践がすでに行われている場合には、迅速に行うことができます。コミュニティは、パンデミックの最中にも、高齢者やその他の利害関係者とともに解決策を見つけ始めることができます。コミュニティが、健康な高齢化の社会的・身体的決定要因に関する多分野にわたる行動をとることで、危機が発生している最中やそれ以降にわたって、高齢期に至るまでの間、そして高齢期における健康と福祉を促進するために役立つことができます。

行動領域3：高齢者に対応した、人を中心とした統合ケアとプライマリー・ヘルスサービスを提供する。

【何を意味するか】

プライマリー・ヘルスケアは、あらゆる年齢層の個人の身体的・精神的能力と幸福感を高めるための最も効果的かつ効率的なアプローチです。個人中心のプライマリー・ヘルスケアは、地域社会のパートナーとともに、臨床管理を含めた設定やレベル間で統合され、長期的なケアや専門的なケアの提供に結びつけられるべきです。

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって何が明らかになったか】

COVID-19は医療システムへの需要を劇的に増大させ、緩和ケア、リハビリテーション、歯科治療を含む複数の疾患（特にガン、高血圧、糖尿病、心血管疾患などの非感染症疾患）や複雑なニーズを持つ多くの高齢者をサポートし、対応する能力を制限しています。COVID-19に感染すること、あるいは医療制度の負担になることを恐れて、必要不可欠な医療サービスを避けることは、ガンなどの疾患の診断数を減らし、慢性疾患のケアの中断につながる可能性があります。

【すべきことは何か】

コミュニティが高齢者の能力を開発したり維持したりすることを支援するために、個人を中心とした、差別のない、アクセスしやすい、統合されたプライマリー・ヘルスケアとソーシャル・ケアは、パンデミック中もパンデミック後も強化されるべきです。高齢者のための統合されたケアを拡大するには、医療システムへの投資と強化、高齢者の臨床試験への参画、新技術と遠隔医療の開発、そして人々が能力を構築し維持する機会を創出するための非医療部門との協力が必要になります。より個別化された包括的なサービスは、高齢者のニーズをさらに充足させ、病床への需要を減らし、罹患率と死亡率のリスクを下げることになります。

行動領域4：要介護の高齢者に介護サービスを提供する。

【何を意味するか】

自立した生活を送るためのケアや支援が必要となる人もいます。身体的・精神的能力が著しく低下した場合には、緩和ケアを含む質の高い長期ケアへのアクセスが、基本的人権、基本的自由、人間の尊厳に合致した機能的能力を維持するために不可欠になります。長期ケアは、プライマリーケアシステムと連携し、それに応じて対応しなければなりません。

【新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって何が明らかになったか】

COVID-19以前から、長期介護サービスはリソース不足がちで、軽視され、医療やソーシャル・ケアシステムの他の部分とうまく統合されていませんでした。これらの弱点がCOVID-19により明らかにされ、長期ケア施設では壊滅的な影響を受けています。これらの施設にいる多くの高齢者の、基礎疾患による重症化や死亡のリスクが高まっています。これらのリスクは、スペースが不十分である場合や、COVID-19の対応が遅れている場合、COVID-19の症例や死亡者の報告が行われていない場合、スタッフが個人用保護具等の感染予防や感染管理のトレーニングを受けていない場合、監督が不十分な場合、方針やガバナンスが弱い場合などに悪化します。

【すべきことは何か】

長期ケアの優先順位を高めるために、「10年」の活動では、関連するガイドラインやツールキット、グッドプラクティスの開発を加速させ、そのような環境での人的資源や資金、宿泊施設の基準やガバナンスの向上を提唱し、長期ケア施設のより良いデータ集計のための取組を強化していきます。「10年」は、こうした環境下での感染リスクの高い人々の検査の優先順位の付け方など、パンデミックから教訓を得ることで、持続可能で公平な長期ケアシステムを実現するための具体的な行動を導き出すことができます。

「10年」の4つの行動領域の実施は、**4つのイネーブラー（成功要因）**によってサポートされます。

1

多様な声に耳を傾け、高齢者、家族、介護者、地域社会との有意義な関わりを可能にする。

「高齢者を目に見えない存在、無力な存在として扱わないようにしましょう」と国連事務総長が促したように、COVID-19を経験した人々、あるいはCOVID-19の影響を直接受けた人々の経験から学ぶとともに、「10年」で優先される行動に関する高齢者の経験と視点を、短期的・長期的な対応に影響を与えられるよう着目していきましょう。物事を良くしていくためには、高齢者やその周囲の人々の声に耳を傾けられなければなりません。

2

セクターを超えて統合された適切な行動をとるためのリーダーシップを育成し全てのレベルで能力を構築する。

COVID-19は、あらゆるレベルのシステム、知識、能力の格差を露呈していますが、それと同時に強さも明らかにしています。「10年」のプラットフォームは、例えば、学習機会、能力開発のためのリソース、仲間同士の支援ネットワークなどを通じて、格差への対応に貢献します。

3

世界中の多様なステークホルダーをつなぎ、他者の経験を共有し、そこから学ぶ。

「10年」のプラットフォームを通じて、多様なセクター、環境、レベルのステークホルダーが、COVID-19パンデミックの様々な段階（準備中、活動制限中、回復段階、COVID-19に対応できる状態の達成）における、関連する全ての問題について協力を強化していきます。

4

データ、研究、イノベーションを強化し、実装を加速させる。

信頼性の高いデータの取得、指標の特定、年齢別データの整合化と集計の強化が課題となっています。まずは複雑化するデータの意味を理解することは不可欠です。COVID-19は、予防と管理を支援するために、疾病に基づくアプローチと、より包括的に機能を評価するためのアプローチの両方から学ぶことの重要性を強調しています。高齢者のデジタル・リテラシーを向上させるためのイノベーションは、世代間のデジタルデバイドを解消し、情報共有と社会的なつながりを向上させるのに役立つでしょう。

COVID-19が高齢者に及ぼす不均衡な悪影響は、私たちの社会と経済、そしてそれらを動かすシステム、価値観、政治的選択が、ライフコース全体、そして高齢期と人生の後半に至るまで、健康と幸福に影響を及ぼすことを示しています。人生の後半期におけるエイジズムに取り組むための投資、高齢者に優しいコミュニティの開発、各国の、統合され、人を中心としたヘルスケアと長期ケアのシステムの構築と強化など、全てのレベルで、緊急に多くのことが行わなければなりません。

COVID-19の文脈の中で、「健康な高齢化の10年」は、戦略、資源、システムを集中して「より良い復興」を可能にするための時宜を得た機会を世界に提供しています。 4つの横断的なイネーブラーにサポートされ、「健康な高齢者の10年」は、その4つの行動領域の中で、パンデミックから立ち上がる「ニュー・ノーマル」のビジョン、計画、そして可能性を提供します。そして、その中では、高齢者が尊重され、仲間として加わり、保護されるとともに、その健康、幸福、人権が促進されます。

COVID-19は、全ての利害関係者の間での連帯と協力が、これまでになく必要であることを示しています。 世界的な協働である「健康な高齢化の10年」は、政府、市民社会、民間部門などが力を合わせることを必要としています。国連は、健康関連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた各国の進展を加速させるために、その役割を強化しています。国連のカントリーチーム、WHOの国別事務所、地域メカニズム、そしてSDGsに関する国連の行動の10年の枠組みを強化することで、国連システムは、前向きな変化のための世界的な行動と連帯をさらに動員しようとしています。これには、高齢者のニーズと権利に対処するためのガイダンスを適応させ、実施するための国への支援も含まれなければなりません。

「より良い復興」は、現在及び将来の世代にとって、道徳的、社会的、経済的に必要不可欠なものです。しばらくの間COVID-19とともにある状況の中、無駄にする時間はありません。